

特集2 従業員とともに成長するカンボジア事業

これまでさまざまな国で事業を展開してきたミネベアグループ。ミネベアの新たな生産拠点となったカンボジアにおける、従業員と高め合うものづくりの姿を紹介します。



カンボジアにおけるミネベアのグローバル戦略

ミネベアは2011年4月に60周年記念事業と位置付け、カンボジアでの生産を開始しました。当時、当社の主力製造拠点であるタイや中国では、為替リスク、労働力の不足、賃金の上昇といった課題を抱えており、こうした状況を打破するための新たな拠点として候補に挙げたのがカンボジアです。カンボジアは、当社最大の生産拠点であるタイから程近く、政治的にも安定しているのが利点で、カンボジア工場を人手を要する組立工程を中心とした拠点と位置付け、タイなどの周辺国工場では付加価値生産を加速させることで、アジア地域においてさらに効率的な生産体制を構築するのが狙いです。

カンボジア工場はプノンペン経済特区 (PPSEZ) 内にあり、2011年12月に、400m×70mで延べ床面積28,000㎡の第一工場を開所。2014年3月には、およそ4,000人の従業員を雇用し、約3年間でPPSEZ内最大規模を誇るまでに成長しています。製造ラインでは、OA機器や家電で使われる小型モーターやスマートフォン向けバックライトが昼夜を問わず組み立てられ、今後は世界の需要に対応するため、さらに規模を拡大する予定です。



起工式の様子

カンボジア工場が直面する課題

軌道に乗り始めたカンボジア事業ですが、いまだに多くの問題に直面しています。一つ目の問題は、労働者の知識やスキルが不足していること。20世紀後半に行われた内戦の影響で、30歳を超える経験豊富な労働者の数が少ない上、カンボジアの子どもたちは、家業の手伝いなどから義務教育を終了できないことも多く、基礎学力の向上が国としての課題となっています。

もう一つの問題が、労働者の意識の問題です。国民の9割が農業に従事しているため、日本企業の考える「会社に勤める」という常識とは認識が大きく異なります。そのため、靴を脱ぐ、道にごみを捨てないといった当たり前のことに対する意識の違いや、親元を離れるといったことへの抵抗感などが従業員の育成を妨げています。このような意識の違いを乗り越え、従業員の習熟と働く意欲を醸成することが、今後の事業成功には不可欠な要素です。

従業員の期待に応える

ミネベアでは、これまで海外進出で培ってきた多くの経験から、従業員とともに成長していくことが、こうした問題の解決に必要であると考えています。その思想は新たな進出国であるカンボジアにおいても例外ではありません。カンボジア工場の新入社員には、入社後に多くの研修を用意し、技術的なことだけでなく、就労者として身に付けなくてはならない意識的なことまで丁寧に教えています。



日曜学校の様子

従業員寮



また、これに加えて重要なのが、従業員の会社に対する期待に応えること。これが従業員の働く意欲を高め、ひいては愛社精神の醸成につながります。そのため、さまざまな場面で従業員とコミュニケーションの機会を設け、従業員が何を考え、悩んでいるのかを徹底的に聴き、さまざまな施策に取り組んでいます。

その施策の一つが、従業員への学校教育の提供です。学校を卒業していないものの学習意欲が高い多くの従業員の要望を受け、取り組みを始めました。また、この取り組みをさらに発展させ、国語、数学、英語を教える日曜学校を開催。教室は任意参加にもかかわらず毎回満員で、夜勤明けで参加する従業員がいるほどの盛況ぶりです。

このほかにも、従業員寮や食堂といった設備の充実など、従業員の日々の生活改善も行っています。従業員のさらなる生活環境改善を目指し新たな寮も建設中です。これらの一つ一つのきめ細かい取り組みが従業員のスキルアップだけでなく、仕事に対する情熱と

ミネベアへの帰属意識を育てています。

情熱の先を目指して

ミネベアの経営の基本方針「五つの心得」には「従業員が誇りを持てる会社でなければならない」とあり、会社は従業員の働く意欲に応えなくてははいけません。従業員と情熱を共有できているからこそ、社会から求められる製品を提供して「真摯なものづくり」の実現が可能になるのです。

そして、その成長の過程で地域の発展にも貢献します。こうした姿勢は当社が進出したすべての地域において実施してきたことであり、カンボジアにおいても変わりません。これからも事業の拡大の中で多くの雇用を生み出すだけでなく、地域の抱える問題にも取り組み、「地域社会に歓迎されなければならない」という心得も実践することで、地域とともに成長していきます。

日曜学校に参加して

仕事で計算したりコミュニケーションするために必要な英語や数学の能力をレベルアップできるので、日曜学校には非常に楽しく参加しています。わたしは夜勤が中心ですがラインのリーダーと相談して教室に参加できるようにしてもらっています。働きながらこうした知識を高める機会をもらえるのは本当にうれしいですし、とても幸運に思います。しっかりと継続して学んでいき、将来は管理部門の業務などさまざまな仕事ができるようになりたいです。



ベン ソクニフ
ライティングデバイス事業部

取り組みに感謝しています

従業員の方々は非常に熱心に学習しています。カリキュラムは貴社と共同で制作しており、それをもとに各個人のレベルに合わせて学べるようにしていますので、スタート時より教育水準が上がっているのを実感しています。カンボジアに進出し雇用を生み出すだけでなく、教育機会も与えてもらえるのは従業員の方だけでなくカンボジア社会の未来にとって非常に重要です。貴社には非常に感謝しています。



フォン マカラ先生